



日本赤十字社

深谷赤十字病院

日赤通り



当院でカテーテル手技のライブデモを実施する「TOPIC2025」の様子

CONTENTS

- 心臓リハビリテーションセンターについて P.2～
- 救護班活動報告（救護班要員研修会） P.4
- 診療現場レポートvol.5 ～血液がん～ P.5
- あなたをTEAMで支えますvol.5 ～術後疼痛管理チーム～ P.6
- TOPIC2025・ふれあい看護体験..... P.7
- 地域連携だより P.8～
- INFORMATION 裏表紙

令和7年 夏号
Vol.84

～ 受診される患者さまの権利 ～

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 個人の人権を尊重した良質な医療を受ける権利 | 4. 自らの意思で検査・治療法などを選択、あるいは拒否する権利 |
| 2. プライバシーが保護される権利 | 5. セカンドオピニオンを得る権利 |
| 3. 納得のいく説明と情報提供を受ける権利 | |

心臓リハビリテーションセンター について紹介します

病棟6階ラウンジに設置されている心臓リハビリテーションセンター。
当院が行っている心臓リハビリテーションの取り組みとともに紹介いたします。

心臓リハビリテーションとは

心臓病をお持ちの患者さんに対して、運動療法(ストレッチや筋力増強運動、エアロバイクなど)を中心に食事内容や薬の管理といった生活指導などを行い、体力の回復や病気の再発予防、社会復帰を目指すリハビリテーションプログラムです。

急性心筋梗塞や心不全などの病気に、「どのような運動をどのくらい行ってよいのか」といった疑問や悩みを持つ方、運動量の目安を知りたい方に対応しています。



患者さんの状態に合わせて負荷や時間を変えていきます。



運動の前後にはしっかりとストレッチを行います。

当院では、循環器科および心臓血管外科医師と協力し合い、心臓リハビリテーションプログラムを実施しております。心臓リハビリテーション指導士の資格を有する3名の職員(医師1名、理学療法士2名)と、専門知識を持った担当職員を中心に活動し、患者さんの状態に合わせて運動量や時間を調整しながら対応しています。運動中は心電図や血圧などをモニタリングしながら安全面に配慮して実施しております。

心臓リハビリテーション指導士 理学療法士 佐々木 祐哉



心臓リハビリテーションの効果

- ①運動能力が向上し、楽に動けるようになる
- ②筋肉量が増えて楽に動けるようになり、心臓への負担が減る
- ③心臓や血管が柔らかくなり、拡張しやすくなる
- ④高血圧、糖尿病、肥満などの動脈硬化のもとになる危険因子が改善される
- ⑤血液がサラサラになり、血栓ができにくくなる
- ⑥自律神経が落ち着いて動悸が減る
- ⑦免疫機能が向上し、病気に強くなる



心臓リハビリテーションを担当する
リハビリテーション科部職員



心臓リハビリテーションセンター

令和6年12月に開設され、室内にはエアロバイクや心電図モニターなど、リハビリで活用する器具が設置されています。午前には外来患者さん、午後には入院患者さんに対して、運動療法を中心とした集団リハビリテーションを実施します。

また、リハビリ実施時間に合わせて当番医師がその場で患者さんに対して診察を行っています。



当番医師がリハビリ時間に診察を行います。

Pick Up

心肺運動負荷試験(CPX)

酸素マスクを着用しながらエアロバイクを漕ぎ、体力を数値化できる機械。

患者さんごとに適切な負荷量を評価し、安全で効果的な運動が提供できるよう取り組んでいます。

※機械は当院の生理検査室に設置。



深谷赤十字病院
副院長(循環器科)

長谷川 修一

心臓の病気で入院された方は、また病気になるのではないかと心配されます。心臓に負担を加えないように静かに生活し、行動を制限しようと思いがちです。ところが、そのような生活を続けると心肺機能は低下し、軽労作で息が切れてしまいます。

それを防ぐためには、病気になった直後から適切な運動を行い、心肺機能の維持向上を図る心臓リハビリが必要です。運動で心臓に負担をかけることが心配と考える方も多いと思いますが、心臓リハビリでは適切な運動量を設定し、心拍数や血圧をモニターしながら行いますので安全です。

体調の相談や心配なことがあればスタッフが優しく答えてくれます。また当院の心臓リハビリテーションセンターは6階病棟で深谷市街の景色を見ながら行いますので、眺望も良好です。

さあ、心臓リハビリを行い、健康な生活を取り戻しましょう。

救護班要員研修会



令和7年6月25日(水)～27日(金)の3日間にかけて、「令和7年度救護班要員研修会」が行われました。

この研修会には、埼玉県支部管内の各施設(支部、さいたま赤十字病院、小川赤十字病院、深谷赤十字病院)の職員が受講しています。医師をはじめ、看護師、薬剤師、診療放射線技師等のコメディカル、事務職員が災害時の医療救護に必要な知識・技術を学習し、最終日の総合演習では、多数傷病者が発生する災害想定の中での救護活動を実践しました。

当院からも、今年度に行われた常備救護班要員任命式にて、新たに任命された常備救護班第3班の要員が参加しました。

1日目&2日目 災害救護の基礎・専門知識を身につける

災害を想定した机上演習



トリアージ*を練習



ストレッチャーの操作方法を確認



*トリアージ…傷病者の重症度に応じて治療の優先度を定める

3日目 総合演習で実践力を養う

本部への到着報告



ブリーフィングを行い役割を確認



救護所に運ばれた傷病者を処置



日本赤十字社の災害救護活動について

災害が発生し、救護活動が必要と判断される場合や、被災地となった都道府県等から要請があった場合に、その都道府県にある支部を主体として実施します。支部はただちに救護班等を被災地に派遣し、他の救護団体と協力しながら救護所の設置、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動等を行います。

常備救護班の編成

医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事(事務等)2名の他、状況に応じて薬剤師や助産師等の要員を帯同することができます。

当院は3個班、計21名が任命されています。



第3班班長 須賀医師

今年度新しく救護班に任命されました、医師の須賀と申します。人々の命と健康を守る使命を胸に、チームと協力して迅速かつ確かな救護活動を行えるよう最善を尽くして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

血液がん

悪性リンパ腫に対する免疫療法

深谷赤十字病院 血液内科部長 **中橋 寛隆**

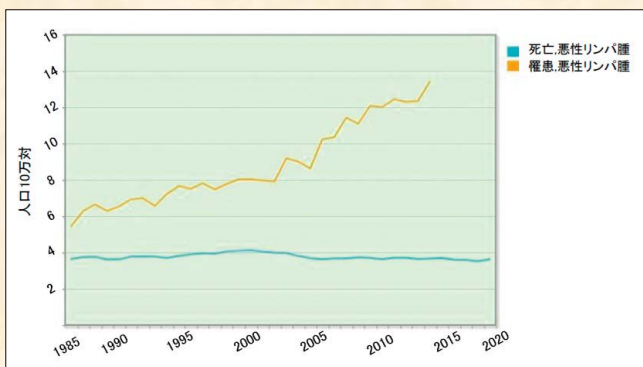


血液がんとは、血液を作る細胞ががんになってしまう病気です。主なものとして、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などがあります。特徴として、他のがんのように固まりを作ることが少なく、血液を通じて全身に広がるため、早期発見が難しいことが多いです。進行期でも抗がん剤だけで治すことができるのも血液がんの特徴ですが、近年は治療の進歩が著しく、分子標的薬や免疫療法など、新しい治療の選択肢が増えていきます。

悪性リンパ腫

悪性リンパ腫は、体の免疫を担うリンパ球という細胞ががんになり、リンパ節(首やわきのしこり)が腫れることで見つかることが多い病気です。体中をまわっている細胞ががんとなるため、リンパ節のみならず、全身のあらゆる臓器に病変を作るのが特徴です。

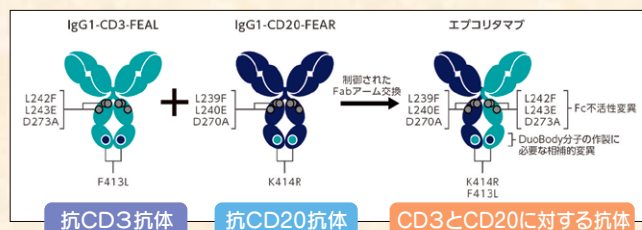
年々増加傾向にあるがんであり、当院では1年間に60名程度の新規悪性リンパ腫の患者様の治療にあたっております。



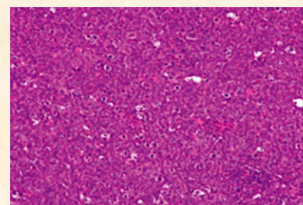
悪性リンパ腫の罹患率の年次推移

二重特異性抗体

悪性リンパ腫に対する新規治療(がん免疫療法)のひとつ。当院は県内2番目の導入となりました(昨年度院内で実施したがん症例検討会で発表させていただきました)。



T細胞の細胞膜上に発現するCD3と、リンパ腫の細胞膜上に発現するCD20の両者に結合することにより、T細胞の活性化を誘導し、腫瘍細胞を攻撃する



顕微鏡から見た悪性リンパ腫

Key Person

中橋 寛隆

NAKASHI HIROTAKA



- 2001年 群馬大学医学部卒
群馬大学医学部附属部病院
第三内科研修医
- 2003年 深谷赤十字病院 血液内科
- 2004年 公立藤岡総合病院 血液内科
- 2005年 群馬大学大学院 医学系研究科
- 2009年 国立西群馬病院 血液内科
- 2010年 National Institutes of Health
米国国立衛生研究所
- 2013年 深谷赤十字病院 血液内科
- 2025年 深谷赤十字病院 血液内科部長

これまでのがん治療は①手術療法②化学療法(薬物療法)③放射線療法を3本柱として、長らく治療されてきました。しかし2010年代、免疫チェックポイント阻害薬の登場により、がん治療の4本目の新たな柱として免疫療法が注目されるようになりました。現在血液がんでは、免疫チェックポイント阻害剤だけでなく、CAR-T療法や今回紹介しました二重特異性抗体が臨床導入され、これまで治療が難しかった患者様の新たな治療法として多くの薬剤が使用できるようになりました。

今までの抗がん剤とは違う副作用があるため、多職種での情報共有、チーム治療がより重要となります。二重特異性抗体薬は患者さんへの負担は総じて少ない(脱毛がありません)治療であるため、今後も対象の方がいらっしゃれば、積極的に治療導入をと考えております。

埼玉県北唯一の血液内科として、地域の皆様の血液診療に貢献していきたいと思っております。血液がん含む、血液疾患について何かお困りのことがあればいつでもご相談いただければと思います。

術後疼痛管理チーム

「手術後の痛みを我慢する時代」、「手術後は痛いのが当たりまえ」から「痛みを適切にコントロールして回復を促す時代」へ!!

手術後の痛みは、回復を妨げたり、不安やストレスの原因になることがあり、入院生活の質に大きく影響します。

私たち術後疼痛管理チーム (Acute Pain Service: APS) は、麻酔科医、看護師、薬剤師が連携し、患者さん一人ひとりの痛みを定期的にチェックし、最適な痛み止めの方法を提案・調製します。このように、手術後の痛みを和らげるためのサポートを行っています。

この活動は2年前から始めたばかりですが、手術後の快適で安心な入院生活を支えるため、日々活動を続けています。

各職種の役割について

医師 (麻酔科医)

個々の患者さんの背景、術式、併存疾患に応じて手術中から最適な麻酔管理を行うとともに、術後は疼痛や嘔気嘔吐等の治療が適切に行われているか評価します。看護師、薬剤師とディスカッションをして、患者さんの苦痛緩和に必要と判断すれば、主治医に対しての提案や、処置や処方を行います。

看護師

手術前から患者さんと関わり、手術中から手術後までの経過を見通せる視点を活かし、病棟看護師との連携を図り、痛みの程度や鎮痛薬の効果・副作用 (吐き気やしびれなど) の確認を行い、患者さんの状態に合わせて対応していきます。また、自己調節鎮痛法 (痛み止めの機械) の使い方を丁寧に説明します。

痛みは我慢するものではありません。痛みのこと以外でも気になることがあれば、いつでもお声掛けください。

薬剤師

手術後の痛みの軽減、患者さんの早期回復を支援するためのプロトコル (計画) 作成から関わっています。

患者さんに投与する薬剤の効果や副作用の反応を確認して、正しく使用されているかを評価します。患者さんの状態によっては、量の増減や異なる種類の薬剤の追加など、より最適な対策を主治医に提案します。



チーム活動の様子

月曜から金曜の午前には回診を行います。対象となる手術後の疼痛管理を要する患者さんをチーム内で共有し、術後の痛みや吐き気、副作用などの状況を確認します。

患者さんの状態によっては、医師との相談の上で痛み止めの追加や副作用対策を提案していきます。

TOPIC2025

Live Demonstrationに当院医師が参加



治療技術の普及、標準化が必要な心臓カテーテル治療の手技をオンラインで研修会場に中継する「TOPIC2025」が開催され、令和7年7月5日（土）に当院循環器科医師が術者として参加しました。

当日は3例の治療が院内で行われ、その様子はライブデモンストレーションとして東京にある会場へ中継され、コメンテーターと話し合いながら最善の治療法が検討・実施されました。

また、治療の様子は、会場に参加された方だけでなく、遠隔地の医療関係者にもオンラインで視聴され、多くの医師に対して治療技術を学び普及する機会となりました。

日本人の死因の上位に位置する「心疾患」には心筋梗塞や狭心症等があり、これらの治療や診断にカテーテル治療が用いられ、患者の救命や予後改善に大きく寄与しています。当院は昨年度においてもこのイベントに関わっており、地域や将来の治療に役立つ機会となりました。



当院でのカテーテル治療の様子



治療の様子はオンラインで東京の会場に中継

ふれあい看護体験を実施しました



令和7年7月29日（火）、看護師や助産師に興味を持つ高校生30名を当院に迎え、ふれあい看護体験※を開催しました。

参加した高校生は各病棟に分かれて看護師が行う業務を見学したほか、実際に業務の一部を体験し、病棟によっては患者さんと直接会話をする場面もありました。

現場で体験した高校生からは、「個人ではなく他の医療従事者と連携を取りながら患者さんをサポートしていくことの大切さを学びました」、「自分の将来のためにもっともっと看護師の仕事について詳しく知っていきたいと思いました」等といった感想をいただきました。

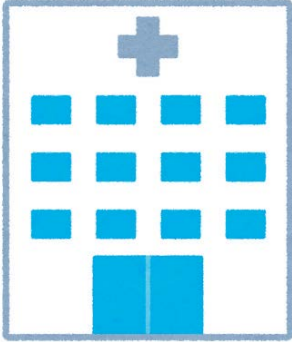
今回の体験を通じて、健康や看護に対する関心を深めていただくとともに、将来の自分を考えるきっかけとしていただければと思います。

※埼玉県看護協会の事業計画に基づくイベントで、看護師や助産師の仕事に興味を持つ高校生を対象に院内での看護体験や職員との交流を行い、自分の将来について考える機会として実施。



地域医療連携だより

深谷赤十字病院は地域との医療連携に努めています。



当院は、初期診療や慢性の継続診療などは「かかりつけ医」の先生に診ていただき、専門的な検査や診察、また入院が必要な治療は病院が受け入れるという役割分担を行っており、地域の皆様が継続して適切な医療が受けられるような体制を維持しています。

毎号、医療連携にご協力いただいている医療機関を順次ご紹介しています。



上柴メンタルクリニック

住所 〒366-0052 深谷市上柴町西2-14-43
電話 048-551-7000
院長 柴田 忠彦
診療科 心療内科、精神科
休診日 木曜、日曜、祝日、土曜午後
診療時間 午前9時～12時30分
午後2時30分～6時



院長先生からのメッセージ

当院は開院して15年になります。高校生から高齢の方のうつ病や不安障害などのこころの病気に対する治療を行っております。治療においては、疾患や療養の仕方を説明した上での治療を心がけています。予約制ですので、電話で予約の上、ご来院ください。

えのもとクリニック

住所 〒360-0018 熊谷市中央3-186
電話 048-528-5555
院長 榎本 信哉
診療科 内科、小児外科、小児科
休診日 木曜、日曜、祝日、土曜午後
診療時間 午前9時～12時 午後2時～6時



院長先生からのメッセージ

子どものためのクリニックです。小児の「よろず相談所」として機能するよう、小児内科だけでなく、外来小外科や熱傷などの小児外科疾患、皮膚疾患、アレルギー、おねしょなど、子どもの病気には、できるだけ対応するようにしております。子供の病気でお困りの際は、ご一報ください。

<地域の皆様へのご案内>

当院を受診の際は、紹介状をご持参ください。

当院受診の際（初診時）は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をご持参いただくことをお勧めします。

紹介状（診療情報提供書）をご持参いただいた場合は、国が定める初診時選定療養費（医科7,700円・歯科5,500円）のご負担がなくなります。



あさひ診療所

住 所 〒368-0044 秩父市本町1-2
電 話 0494-21-5001
院 長 堀 泰弘
診 療 科 内科
休 診 日 土曜、日曜、祝日
診 療 時 間 午前9時30分～12時30分
午後2時30分～5時30分



院長先生からのメッセージ

秩父神社のすぐ傍に位置する当院は、2000年5月に開業し、人工透析及び一般内科外来診療を行なっております。通院専門施設として、深谷日赤との連携強化は大変重要と考えております。今後共、スタッフ一同地域医療に貢献できる様努力してまいります。

竹内歯科医院

住 所 〒367-0061 本庄市小島1-4-19
電 話 0495-21-8817
院 長 竹内 靖
診 療 科 歯科
休 診 日 日曜、祝日、木曜（不定休）
診 療 時 間 午前9時～13時（受付12時まで）
午後14時30分～18時30分（受付18時まで）



院長先生からのメッセージ

平成元年に開院し、40年近くが経ちました。その間、スタッフ一同、「ホスピタリティー」を当院の基本に据えて、地域の皆様のお口に関するニーズに真摯に向き合ってきました。深谷日赤との円滑な病診連携も含め、「安心・安全」をめざしてまいります。



受診の際は

マイナ保険証をご利用ください

マイナ保険証(マイナンバーカード)への移行に伴い、国民健康保険や後期高齢者医療制度加入者の旧保険証は令和7年7月31日に有効期限を迎えました。マイナ保険証をお持ちでない方は8月1日以降に利用できる資格確認書が保険者から交付されています。

受診の際は、「マイナ保険証」をお持ちの方はご提示いただき、マイナ保険証をお持ちでない方はあらかじめ交付を受けた「資格確認書」をご提示いただきますようお願いいたします。

マイナ保険証(マイナンバーカード)を利用し、医療情報等の提供に関する同意をすることで、医師が過去の診療情報や特定健診情報等を閲覧することができ、より多くの情報に基づいた適切な診療を受けることができます。



～読者アンケートに是非ご協力ください～

皆さまへより良い情報提供ができる誌面づくりを目指しております。本誌に対するアンケートにご協力いただいた方には赤十字グッズ(左掲写真)を差し上げます。

アンケートはこちらのQRコード
もしくはURLから!
(アンケートサイトに飛びます)
回答期限: 令和7年10月30日まで



1分でできる
簡単なアンケートです!

<https://questant.jp/q/M67LVUUT>



※プレゼントは変更になる場合がございます。

深谷赤十字病院の理念と基本方針

理念

人道・博愛の赤十字精神のもと、地域の皆様の健康を守り、信頼される医療を提供します。

1. 医療人として生命倫理を最大限尊重します。
2. 医療安全に努め、質の高い医療を提供します。
3. 患者中心の医療を行います。
4. 地域との医療連携に努めます。
5. 災害救護や新興感染症の対応と、国際活動に貢献します。
6. 健全経営に努め、働き甲斐のある病院を目指します。

基本方針

深谷赤十字病院臨床研修の理念と基本方針

理念

医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁にかかわる負傷または疾病に適切に対応できる診療能力を身につける。

1. 基本的診療能力及び基本的価値観(プロフェッショナリズム)の修得
医師として将来専門とする分野に関わらず必要な基本的診療能力及び医師としての行動を決定づける基本的価値観(プロフェッショナリズム)を修得する。
2. 患者の立場に立った医療を実践
医師として患者から人間としても信頼される思いやりの心を持った謙虚な医療人となり、患者の立場に立った医療を実践する。
3. チーム医療の実践
チーム医療の大切さを理解して病院内の他職種と連携を密にしてコミュニケーションを取りながら安全な医療を提供する。
4. 地域医療に貢献
地域の中核病院としての役割を理解し、地域医療に関心を持ち、地域医療の現場を経験する。
5. 赤十字病院の責務と理解
赤十字病院としての公的病院の責務や災害時における医療救護活動を理解する。
6. 生涯学習の継続
質の高い医療を提供できるよう、生涯を通じて教育・学習を続ける態度と習慣を实践し、医療技術の習得に努める。また、後輩を育成することによって自らが学ぶ姿勢を有する。

基本方針



日本赤十字社

深谷赤十字病院

〒366-0052 深谷市上柴町西5丁目8番地1

TEL 048-571-1511 (代)

<https://www.fukaya.jrc.or.jp>

Vol.84 令和7年8月29日発行

編集発行: 深谷赤十字病院

広報・公聴委員会